

ご成人おめでとう



藍住町

第96号

平成31年2月25日

議会だより

12
月足例会

一般質問 ～町政のことが聞きたい～ ……P. 4～6
わたしの一言・議会のうでぎ ……P. 8

12月議会定例会が12月6日から19日までの14日間の会期で開会され、
 下記の議案について審議しました。
 一般質問では3人の議員が登壇し、町政について質問しました。

12月定例会

～町長提案～

- 平成30年度藍住町一般会計補正予算 …………… 原案可決
- 平成30年度藍住町特別会計（介護保険事業）補正予算 …………… 原案可決
- 藍住町福祉センター設置及び管理に関する条例の廃止 …………… 原案可決
- 藍住町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める
 条例の一部改正 …………… 原案可決
- 藍住町指定地域密着型サービス事業者等の指定に関し必要な事項を定める条例の一部改正 … 原案可決
- 藍住町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部改正 …… 原案可決
- 藍住町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る
 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正 …………… 原案可決
- 学校業務支援システムの共同化に関する事務の委託に関する協議 …………… 原案可決

平成30年度一般会計補正予算

歳入歳出
それぞれ

3億9,200万円増額

予算
総額

109億2,700万円

～主な補正の内容（1万円未満四捨五入）～

総務費

- ◆（仮称）藍住町文化ホール・公共施複合化事業費
 （ブラインド等内装工事費・机椅子等事務用備品・
 継続費の工事請負費） 1億9,400万円

衛生費

- ◆西クリーンステーション管理費
 （不燃物等処理委託料・2号炉内耐火物補修工事）
 1,913万円

教育費

- ◆小学校総務費 2,700万円
 （北・西小学校の受電設備更新工事）
- ◆中学校費 270万円
 （入学前学用品等）
- ◆文化費 3,700万円
 （旧奥村家修復工事）
- ◆給食総務費 2,200万円
 （原材料費）

平成30年度特別会計（介護保険事業）補正予算

| 会計名 | 補正前の額 | 補正額 | 補正後の額 |
|--------|------------|---------|----------|
| 介護保険事業 | 25億6,500万円 | 4,460万円 | 26億960万円 |

定例会案内

本会議を傍聴しませんか

次の定例会は3月です。

（定例会日程についてはホームページに掲載しています。そちらをごらんください。）

次号は5月に発行します。

詳しくは議会事務局まで
 お問い合わせ ● 議会事務局 637-3127

編集委員会では、町民の声の投稿を募集しています。
 議会や町政に関する御意見をお寄せください。

投稿規定

- ①住所・氏名・電話番号を明記。
- ②掲載時に匿名を希望する方は申し出てください。
- ③字数は500字以内。
- ④投稿者の多い場合には、掲載月を調整する場合があります。

～議員提案～

● 奥村晴明議員に対する再度、議員辞職勧告動議


平成30年4月15日午後7時頃、奥村晴明議長（当時）は酒気帯び運転で摘発され、議会の信頼と品位を傷つけた。議員は住民の代表として、町政の監視役という重大な職責をもっており、政治的・道義的に責任を免れることはできないとして、林茂議員から再度、議員辞職勧告動議が提出された。これに対して小川幸英議員が賛成討論をし、反対討論をする者はなく、起立採決を行った。


- 提出議員 林 茂
- 賛成議員 小川幸英、喜田 修、矢部幸一、安藝広志、鳥海典昭、西岡恵子、古川義夫

動議の採決結果

| 喜田 修 | 古川 義夫 | 安藝 広志 | 鳥海 典昭 | 矢部 幸一 | 徳元 敏行 | 西岡 恵子 | 西川 良夫 | 小川 幸英 | 林 茂 | 平石 賢治 | 森 志郎 | 佐野 慶一 | 永濱 茂樹 | 森 彪 | 結 果 |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|----------|---------|----------|----------|--------|--------|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | × | × | — | 可決 |

○：賛成 ×：反対 —：議長のため採決には参加せず







1件の陳情があり、議員に配布しました。

▼電気設備工事・管設備工事の分離発注推進のお願い

陳情者
一般社団法人
徳島県設備業協会
会長 石川 雅一





1件の請願がありました。したが、賛成少数で不採択となりました。

●国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願書

請願者
消費税の廃止を求める徳島県各界連絡会
山根 憲一

紹介議員
林 茂 議員
小川 幸英 議員

～平成30年 第2回臨時会～

11月6日開催の臨時会において次の議案が上程され、原案のとおり可決した。

- (仮称)藍住町文化ホール等複合公共施設緑地広場・駐車場整備工事の請負契約の締結 ……原案可決
契約業者：西松建設株式会社四国支店

～平成30年 第3回臨時会～

11月26日開催の臨時会において次の議案が上程され、原案のとおり可決した。

- 職員の給与に関する条例の一部改正 ……原案可決
人事院勧告及び徳島県人事委員会勧告に基づき、宿日直手当を200円、給料表については平均で約0.2%、勤勉手当については、年間の支給月数を0.05月分引き上げる改正



岡山県久米南町議会から視察研修来庁
1月29日、久米南町議会議員7名が定住施策等について研修のため来庁されました。



完成間近。(仮称)藍住町文化ホール・公共施設複合事業建設工事の現場視察
12月19日、定例会閉会后、全議員で現場視察を実施。外部足場が解体され始め、建物の外観が確認できるようになりました。その後の藍住町総合文化ホール特別委員会では、内装材等への藍染めの活用や階段部分等の手すりに対する提言を行いました。

来年度の施策について

藍の魅力発信事業を継続



小川 幸英 議員
(厚生常任委員会)

問 藍の魅力を町内外に発信していく事業を継続すること。今後、観光振興、県内外広く外国の方々にも本町に来てもらえるような取組は。また観光に来ていただいても本町には宿泊施設が少ない。その対策は。

答 藍の魅力発信事業を継続する。また、古民家の活用も含め検討したい。

問 納涼祭の花火大会を復活してほしいとの声が多いが。

答 現在、消防法等の問題もあり難しい。

問 冬でも使用できる屋内型プールを造ってほしいとの声があるが。

答 現在の財政状況では厳しい。

教育現場での暑さ対策について

体育館の空調設置は検討課題

問 今年度の幼小中学校の熱中症の人数と対策は。

答 小学校30人、中学校11人。

小まめな水分補給の指導や、保健室等には経口補水液を常備するなどの対応をしている。

問 水筒を忘れたときなどに対応するため、小中学校に冷水機を設置してはどうか。

答 数台の冷水機を設置しても、ほとんどの児童生徒が利用できないという問題もあり、新規設置は考えていない。

問 災害時避難場所にもなる体育館にエアコン設置が必要と思うが。

答 1校当たりの設置費用は4千万円程度の事例が多く検討課題。

問 残暑厳しい中での練習や運動会の見直しは。

答 保護者の意見や、学校の状況を見ながら検討。

下水道事業について

早期に全体計画を見直す必要がある

問 自治体が水道事業の運営権を民間企業に委託する水道法改正案が可決され民営化が加速する。

民営化になれば料金が高くなり、水質が悪くなると町民も心配しているが今後の方針は。

答 将来の事業を見通しても、検討の必要はない。

問 アスベスト管、古い管を取り換える進捗状況は。

答 アスベスト管は平成35年度頃までには完了する予定。老朽管の更新は、優先順位を付け、計画的に実施する。

問 自治体の更新を促進し耐震化率の向上を図る。

答 水道料金の値上げはあるか。

問 改定の予定はないが、消費税アップ分は改定をすることになる。水道工事と舗装工事の連携はできているか。

答 事前に建設課と協議の上、調整している。

問 下水道事業の進捗状況と今後の取組は。

答 現在の2期事業は平成37年までに完了予定だが、国、県も計画を見直す予定で本町も見直しを検討する必要がある。

問 合併浄化槽の現状は。

答 平成29年度は145基の補助。

その他の質問

ふるさと納税について

問 平成29年度末現在14・4%で、老朽管は。

ふるさと納税について

通学時の子供の負担軽減について

現場の状況を見ながら対応を考える



西岡 恵子 議員
(厚生常任委員会)

問 文部科学省の通知を受け、小学生は教科書や道具類などを教室に置いておく「置き勉」をしているようですが、中学生は部活動等の大きなバッグを持って通学しています。交通事故や子供たちの健康を害さないように適切な対応を求めます。

答 教材教具が増えているが、持ってきている物自体は余り増えていないのが現状で、今後、まだ増えていくようであれば設置場所を確保していく必要がある。ICT化等いろいろな新しい動きが出てきているため、現場の状況を見ながら対応を考えたい。また、登下校の安全に支障がないか調査する。

子育て世代包括支援センター（藍住版ネウボラ）の早期開設を求める

平成31年度中に開設準備を進める

※ネウボラ…フィンランド語でアドバイスの場 (neuvo=アドバイス・la=場所)



問 核家族化は毎年増加傾向、孤立化した中で妊娠、出産、子育てをする厳しい現状があります。本町においても同様。今までの以上に子育て世代への包括的支援が必要です。特に妊婦の自殺の原因とされている産後鬱への対応は重要です。安心して妊娠、出産、子育てできる町を目指し、子育て世代包括支援センターの早期開設を求めます。

答 妊娠、出産、子育てを安心して行えるよう、また、不安を一人で抱え込まないよう、保健と福祉を一体的に捉え、事業の充実や体制の構築に取り組む。子育て世代包括支援センターについては、平成31年度中に開設準備を進める。

男女共同参画社会の実現について 積極的に進めていきたい

問 平成21年3月に「藍住町男女共同参画プラン」を策定以来、男女が共に個性と能力を發揮し、お互いに尊重し合える社会を目指してきた成果と課題について尋ねます。

答 政策決定の場合の女性の登用については、管理職は全体で42・9%、課長職では38・1%で、おむね目標の40%となっている。また、審議会、委員会においては29・4%のため、各委員の委嘱等の際に、女性が発用されるよう、今後積極的に働き掛けていきたい。

その他の質問

- 奥村家住宅修繕について
- 藍染普及推進事業について
- 防災について



ハラスメント防止研修の様子

町道・排水路の清掃及び維持補修の状況は

道路側溝清掃で年平均4万2300mを実施



林 茂 議員
(総務文教常任委員会)



側溝清掃の様子(奥野)

問 町直営業務を藍住町建設業協働組合に委託を行い5年が経過したが、事業内容と委託事業費の状況は。

答 町道排水路等の清掃及び維持補修等、また緊急的な業務として、台風による土のうの配布や冬

季の凍結防止剤の散布等。事業費は5年間で2億7720万円。

問 道路の傷み具合がひどい所が多いが、補修計画は立てているのか。

答 小規模簡易舗装は舗装業者へ発注、穴埋め程度の補修は組合職員が補修を行っている。

問 今後工事が増えてきた場合の対応はどのようにするのか。

答 内容を調査し、委託事業で行うか分離発注するか検討する。

災害に強いまちづくりについて

災害対策は自助・共助が重要な位置づけ

脳ドック検診に助成を まずは特定健診の受診率を高める啓発に努める

問 北島町などは希望者に検診費用を助成し喜ばれている。自己負担が少なく済み、早期発見、早期治療ができる脳ドック検診助成事業は必要。本町も助成事業を実施すること。

答 まずは、特定健診の受診率を高めていくような、様々な普及啓発を行い、疾病の予防、早期発見、生活習慣の改善等に努める。

問 千間堀の改修工事を行うが、その後の状況は。

答 千間堀に流入している排水を、千間堀に流さない方向で計画する。

問 阪神淡路大震災では家屋の倒壊と合わせて、家具の転倒で多くの人が死亡、負傷している。石井町では65歳以上の高齢者のみ世帯や障がい者世帯に家具転倒防止器具の取付けを無償で行っている。本町も実施すること。

答 家具転倒防止器具等取付支援事業で補助を行っているが、自己負担については、他の助成制度と同様に、ある程度の負担はしていただく必要があると考えている。

問 福祉避難所は、高齢者や障がい者、乳幼児など一般の避難所では生活に支障がある被災者を受け入れ支援を行う施設であるが、本町の受入れ整備の状況は。

答 町内の福祉避難所は4施設で、受入れ可能人数は205人。

問 排水路の改修工事の具体的な年次計画を作り予算化し取り組むこと。

答 基本計画を立て、議会にも報告する。

問 台風の影響で通行止めのある浸水箇所数は。

答 18か所。

問 排水ポンプ等による強制排水も有効な手段と考え、正法寺川に排水ポンプを設置し、その効果について検証した上で、今後の排水対策を計画していきたい。

答 排水路の改修工事の具体的な年次計画を作り予算化し取り組むこと。

問 基本計画を立て、議会にも報告する。

議員研修報告

九州熊本地震・防災視察研修を終えて

藍住町防災対策特別委員会 委員長 安藝 広志

11月中旬、高橋町長と藍住町議会議員16人全員と事務局長で研修に行っていました。その報告と藍住町における防災と今後の課題について考えたいと思います。

いつ起きてもおかしくない地震として南海トラフ巨大地震、中央構造線・活断層地震があります。危惧さ



益城町役場

れているこれらの地震のうち、南海トラフを震源とした巨大地震が発生する確率は今後30年の間に80%だと言われており、起きてしまえば徳島県に甚大な被害をもたらせることになりま

す。地震から逃れる手立てはありませんが、起こりうる災害に対して我々は備えをしておくことが重要であります。そこで藍住町の防災はいかにあるべきなのかを考えるため熊本県益城町役場と熊本市役所へ防災視察研修を行いました。

「行政は何もできません。備蓄品は一瞬でなくなりスーパーやコンビニからも商品は消え、3日間飲まず食わずの人がそこら中にいました。」

この言葉は、講師である熊本市議会事務局・大島直也次長（災害時、危機管理対策本部に勤務）から発せられたのですが、私は衝

撃を受けました。

平成28年4月に九州地方を襲った地震は熊本地震と呼ばれ震度7が立て続けに2回発生し、一連の地震で震度6弱以上の地震が7回発生するという観測史上初となり、我々の想像をはるかに上回る地震となったのです。これまで熊本県では、地震は少なく安心であるという認識の上で企業誘致なども行っていたそうですが、それらの常識は覆ったとのことでした。

発災直後、市役所では

ほぼ全職員が初めて経験する事態に動揺し、職員の安全や参集状況もよく分からない状況で、殺到する電話の対応に追われるがパニック状態、「動物園からライオンが逃げた。」「商店街が燃えている。」などのデマが飛び交い、届く情報の精査ができず、対応マニュアルは全く役に立たなかった。

駆け付けてくれた自衛隊は設備を整え「お米はありますか。」と問われた。被災地で自衛隊が炊き出しをしている光景はニュースで見ることがある方が多いと思いますが自衛隊は食材を持って来てくれないという現実。日本中からの支援の手が差し伸べられ次々と届く物資、その一方で、支援を受ける側の体制が整っていません。物資を取りまとめる場所もなく、集まった物資をどこにどのよう

に配ればいいのかも分からない中、その物資をあまりに困る人もいた。避難所は避難者であふれ、24時間交代制で職員が対応しているものの疲労は積み重なり次々と疲弊していく状況で、職員と避難者との情報共有不足や信頼関係不足が混乱を呼び多様な問題が起きました。その中には公になつていない深刻な事件もあつた。この話をしてくれている講師は、自身の家族が大やけどで病院に運ばれたと一報を受けたが、家族に会えたのは震災から10日後であつたとのことでありました。

一連の講義の中のほんの一部分を紹介しましたが、被災された現地の生の声を直接聞くことで、これまで分かつたようなつもりでいたことを実感しました。心のどこかで「自分は大丈夫、避難訓練にも参加している。」というような甘い考えがあつたことに気が付いたのです。

自助・共助・公助、この三つの「助」が大切だと言われておりますが、公助が生きているのは災害が起きてしばらく時間が経過した後であります。その地域で起こつた災害は地域に住む人々全てに襲いかかります。公的機関の職員も同じく被災します。だからこそ災害発生直後には自助と共助が重要になります。電話はつながらない、救急車や消防車も来ない、そんな中で命を守るのは自分自身しかありません。まず自分の命を守り、それから家族、更には隣近所へと共助が広がります。災害の規模にもよりますが、阪神淡路大震災の共助で救われた命は97・5%で、公助は2・5%でした。災害は、いつどこで起

きるか分かりません。ですが災害に備えることはできます。自然の力は我々の想定を超えることがほとんどです。「行政は何もできない。」ならば、できないことを前提に地域に備えることの重要性を伝えていかなければなりません。

議会には藍住町防災対策特別委員会が設置されています。行政とともに課題を精査し、藍住町の防災がいかにあるべきなのか議論してまいります。住民の皆様におかれましては防災意識を高め、備えをしていただきたいと思ひます。



熊本市役所

～自助努力の必要性について～

阿波市から藍住町の住民になって、はや35年。北環状線の開通とともに藍住町（特に徳命地区）を取り巻く環境は著しく変化し、便利で住みやすい町となった。その間に、兵庫県南部地震や新潟県中越沖地震、そして東北地方太平洋沖地震、熊本地震と大地震が頻発した。また、南海トラフでは、100年から150年おきに大きな地震が発生しており、今後30年間の発生率も従来の70%程度から、70～80%と引き上げられた。

そのような時に、近所の世話役さんから自主防災組織の役員のお誘いがあり、徳命東・西地区の防災会長を務めることとなった。防災会では、「自分や家族の命を、日々の備えによって守ろう」を合い言葉に、自助努力の必要性を意識づけることに重点を置き、防災バッグや消火器の配布、家庭用火災報知器の設置、可搬式消火装置の配備等の活動をしてきた。また、町や消防署の協力のもと、定期的に講習会や消火訓練も実施したが、意識の高まりはまだまだ十分とは言えない。

今後は、これまでに取り組んできた「自助努力」の向上とともに、地域で助け合う「共助」の取組も町の力をお借りして進めていきたい。



議会のうごき

11月

- 3日 各種功労者表彰
- 4日 藍ラブフェスティバル
- 6日 議会全員協議会

・第2回議会臨時会
・藍(愛)を身につけて東京2020オリンピック・パラリンピックを応援する特別委員会(作業部会)

- 9日 板野郡町議会議長会定例会
- 10日 消防ポンプ自動車受領式
- 10日 西部スポーツゲーム大会

- 11日 藍住町戦没者追悼式

- 12日 津波避難訓練(東小学校)
- 12日 河北町議会議長・厚生文教常任委員会行政視察来町

- 14日 議員視察研修(熊本県益城町熊本市役所)

- 19日 議会運営委員会

- 20日 町村議会議長全国大会・視察研修(東京都・神奈川県)

- 26日 第3回議会臨時会
- 議会運営委員会
- 藍住町防災対策特別委員会
- 給食業務委託者選定委員会

12月

- 3日 藍(愛)を身につけて東京2020オリンピック・パラリンピックを応援する特別委員会(作業部会)

- 6日 12月議会定例会開会
- 議会改革調査特別委員会
- 空き家対策協議会

- 13日 12月議会定例会一般質問
- 議会全員協議会
- 藍翠苑祭
- 勝瑞児童館クリスマス会

- 14日 議会全員協議会
- 15日 12月議会定例会閉会
- 19日 藍住町総合文化ホール特別委員会

- 20日 子ども・子育て会議
- 26日 板野西部青少年補導センター組合議会定例会(板野町)
- 26日 板野東部消防組合議会臨時会(北島町)

- 27日 自殺対策基本計画策定委員会

1月

- 9日 鳴門市正副議長就任挨拶来庁
- 10日 板野東部消防組合消防出初め式(北島町)

- 11日 議会だより編集委員会
- 13日 藍住町成人式

- 21日 議会改革調査特別委員会
- 25日 商工会新年互礼会
- 28日 議会全員協議会
- 29日 岡山県久米南町議会議員行政視察来庁



消防出初め式

編集後記

平成30年は、高橋町政の発足と議会改革に努力の1年でした。是々非々の考え方で、全議員が自由で活発な発言、活動ができる環境が形成されつつあります。

編集委員会では、中立・公正な立場で親しみやすい内容表現ができるように、重要課題の特集、住民の声などの紙面改革を検討しています。道半ばですが、残りの1年、与えられた使命を全うできるように、全力で努力する決意であります。引き続き議会だよりの愛読と叱咤激励をお願い申し上げます。

是非、議会の傍聴にお越しください。
(徳元 敏行)

議会だより編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 矢部 幸一 |
| 副委員長 | 西岡 恵子 |
| 委員 | 安藝 広志 |
| 委員 | 徳元 敏行 |
| 委員 | 林 茂 |